

東北大学キャンパスマスタープラン2015:星陵キャンパス  
オープンスペース計画

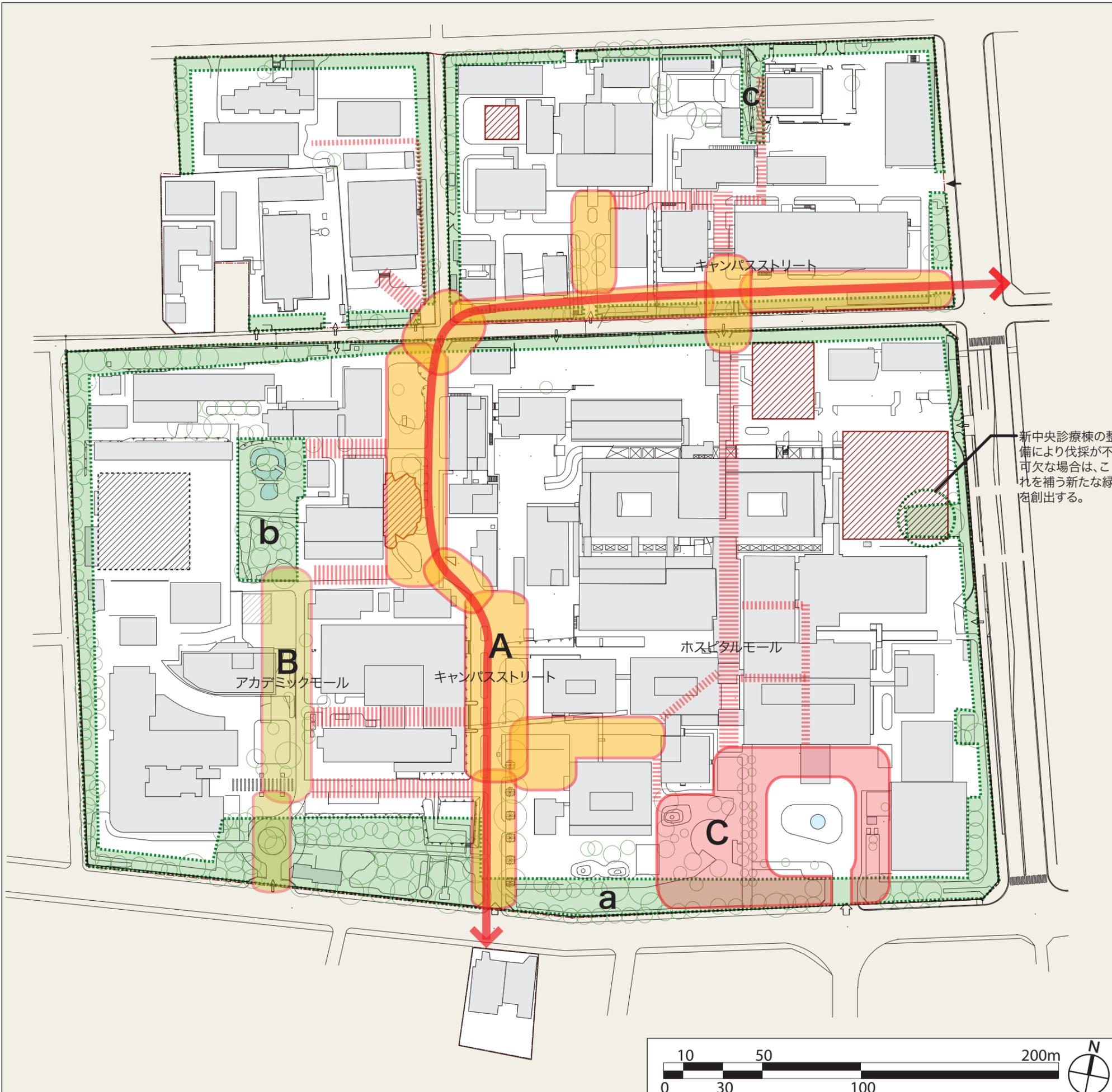
骨格となる歩行者空間の整備方針

- A: 医学部一号館と図書館の間を通るルート、星陵キャンパスにおける主たるアプローチ(キャンパスストリート)として歩行者優先の環境整備を行う  
 →A-1: 将来的には車両通行禁止とする計画だが、当面は歩車共存道路としての整備を図る  
 →A-2: 図書館入口周辺から駐車・駐輪場を移し、広場化を図る  
 →A-3: デッキテラスとスロープを設けることで医学部一号館へのバリアフリー動線を確認する  
 →A-4: 厚生会館および保健学科前の緑地を、魅力的なランドスケープデザインとする  
 →A-5: キャンパスの一体感を創出するために、T字交差点周辺の形状改善を図る  
 →A-6: 雑然とした加齢研・歯学エリアのフロントを、魅力的な歩行者空間として整備する  
 →A-7: 病院との結節点に相応しい環境整備を図る  
 →A-8: 東側市道からのアクセスを歩車分離し、「主たるアプローチ」に繋がる出入口を新設する  
 B: 「医学部正門～中庭軸」に沿って緑道を整備する  
 C: 病院外来玄関前周辺を、自動車優先の構造から、歩行者優先の公園的フロント空間へと改善する

緑地・水路空間の保存・整備方針

- a: 周辺地域への影響緩和を図るため、敷地境界は緑地とする。特にキャンパスストリートに面するエリアを中心に、今後はより一層の緑化が望まれる  
 b: かつての中庭周辺の緑地は、池とともに良好な環境が維持されてきているが、食堂等との関係も含め、より有効な活用方法を探る必要がある  
 c: 貴重な遺構である四ツ谷用水跡の保存を図る

-  保存緑地
-  骨格となるオープンスペース A (キャンパスストリート)
-  緑地を繋ぐオープンスペース B (アカデミックモール)
-  病院のフロントとなるオープンスペース C
-  メイン歩行者動線
-  その他の歩行者動線
-  新築建物
-  計画建物



新中央診療棟の整備により伐採が不可欠な場合は、これを補う新たな緑を創出する。